

木-講演 31-2 国内多施設共同研究による落屑症候群の白内障手術の検討 (第2報：手術アウトカム)**A Multicenter Study on Outcomes of Cataract Surgery in Pseudoexfoliation**

○ もり ようさい 森 洋齊¹⁾、神谷和孝²⁾、郷右近博康³⁾、小島隆司⁴⁾、柴 琢也⁵⁾、
宮田和典¹⁾

¹⁾宮田眼科病院、²⁾北里大・医療衛生、³⁾北里大、⁴⁾慶應大、⁵⁾六本木柴眼科

【目的】落屑症候群(PE)は、散瞳不良やチン小帯漸弱を伴い、白内障手術における難易度は高まるが、手術自体の全体像については不明な点が多い。今回は、国内多施設共同研究によるPEに対する白内障手術の早期手術アウトカムを検証した。

【対象と方法】国内4施設(北里大学、宮田眼科、岐阜日赤、六本木柴眼科)において通常白内障手術を施行し、術後1か月経過観察可能であった37例46眼(年齢76.8±6.2歳)を対象とした。術中チン小帯脆弱性、瞳孔拡張の有無、手術時間、合併症、視力、眼圧、角膜内皮、フレア、予測誤差、絶対誤差を後方視的に検討した。

【結果】術中チン小帯脆弱性(CTR分類)は0度23眼(50%)：1度：16眼(35%)、2度：6眼(13%)、4度：1眼(2%)、瞳孔括約筋切開8眼(17%)、拡張デバイス1眼(2%)、手術時間16.5±5.7分、全例嚢内固定、明らかな術中・術後合併症は認めなかった。術後矯正視力0.03±0.14logMAR(小数視力0.93)、眼圧14.4±3.9mmHg、内皮細胞密度低下2.2±10.6%、フレア14.8±5.8 pc/ms、SRK/T式・Barrett Universal II式による予測誤差は、それぞれ-0.12±0.65 D、-0.01±0.58 D、絶対誤差は、0.39±0.53D、0.36±0.46Dであった。

【結論】PEに対する白内障手術において、瞳孔拡張を要した症例は約2割であり、全例嚢内固定が可能であった。視力・眼圧経過は良好であるが、屈折誤差が大きい傾向があり、注意が必要と考えられた。

【利益相反公表基準：該当】有

【IC：取得】有 **【倫理審査：承認】**有